沖縄県護国神社 社報 第29号

うむい

祖国復帰50周年特集号

令和4年度 皇紀2682年

題字:宮里洋子(沖縄県護国神社前事務局長)

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムィー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

昭和47年5月14日「祖国復帰奉告慰霊大祭」

御挨拶　代表役員(会長) 比嘉 良雄

国旗返還式

特集 沖縄県護国神社の歩み
第6回「祖国復帰までの道のり」
宮司　加治 順人

祖国復帰50年
沖縄県護国神社版
すごろくで辿ってみよう

https://www.okinawa-gokoku.jp

HP　Twitter

御挨拶

代表役員（会長）　比嘉良雄

わが護国神社の社務所を描いた作品が、沖縄タイムス社「第六十九回全琉小・中・高校図画・作文・書道コンクール」図画の部で最優秀賞に輝いた。令和三年十月二十七日の新聞にてその作品が写真入りで大きく紹介されている。

作者は南風原高等支援学校三年生（当時）山根蓮さん十八歳、体のどこか不自由な身なのだろうか。正面から本殿を描いたのではなく、南側の運動公園の方角から見上げるように側面が描かれている。〝沖縄県護国神社〟の文字が茂る木々の中に鮮やかだ。

神社に奉納頂き社務所ロビーで展示することになった。

少年はなにを表現したかったのだろう、何を感じ何に心を打たれたのだろう。聞きたいが聞かない方がよいように思えた。観るだけで十分だからだ。

沖縄県護国神社は昭和十一年に建立されている。奇しくも私と同じ年である。八十五年の歳月を経ている。日清・日露、太平洋戦争で命を落された軍人、軍属、それに沖縄戦で亡くなられた県民十二万余人が合祀されている。前会長外間盛善さんが常々おっしゃった「沖縄県民はすべて遺族です。」

沖縄戦が終って七十余年、戦争体験者は次々と天国へ召される。遺族は、妻、父母、兄弟姉妹から、子、孫、曾孫に移っている。壮絶、悲惨、酸鼻を極めた事々や記憶が時とともに稀薄になっている。自然のなりゆきなのだろう。

わが本殿も築六十年を経て傷みが目立つようになった。改築の時期を迎えている。〝沖縄県護国神社〟力強く描き上げた三世代目の少年の感性、おもいに心をいたし、日々の境内の清掃、整備と、創建一〇〇周年、本殿改築の大業準備に励みたい。

「二〇二二年一月三日新鮮な初詣」
山根　蓮さん（南風原高等支援学校三年）

国旗返還式

返還された国旗

去る六月二十三日の沖縄慰霊の日に併せて米国より七十余年ぶりに本邦に帰国した日章旗の返還式が当社で行われました。

この日章旗は先の大戦後、米爆撃機B29の元爆撃手セス・マードック氏が米国で保管していたもので氏の没後、遺品整理をしていた孫のスペンサー・ベアード氏がこの日章旗を見つけ、友人であり、日本で外国語指導助手を務めていたウィリアム・ターナー氏に遺族探しを依頼しました。ターナー氏はかつての同僚である池末義孝氏に調査を依頼。池末氏は画像から「具志堅榮一君」「チバリヨー」といった沖縄に多い名字や方言が読み取れたため、航空自衛官として沖縄勤務の経験がある中島政美氏にこの話をしたところ、中島氏は沖縄戦の遺族である伊藤博文氏に相談。伊藤氏は旗にあった「旭町」の地名を手がかりに、戦没者の氏名が刻まれた糸満市の「平和の礎」などで「具志堅榮一」氏を探したが、見つからなかった為、地元紙の紙面で呼びかけてもらったところ、豊見城市の元那覇防衛施設局職員、具志堅一雄氏が「父ではないか」と名乗り出て持ち主が判明いたしました。

榮一氏は昭和十七年に陸軍に入隊するものの、東京の警察学校に入ったため戦地には行かず、戦後は沖縄で薬物密輸の取り締まりに従事したとのことです。

今回奉納された日章旗は御霊の直接の御遺品ではありませんが、この旗に寄せ書きを行った方のうち幾人かは当社の御祭神としてお祀りされていることかと存じます。地上戦が繰り広げられた沖縄の地で散華された御霊の中にはお写真も、形見の品も、愛おしい子孫すら失われ、お名前以外にこの現世に生きた証がないという方も大勢いらっしゃいます。そのような御霊の生きた証が今回多くの方の手助けにより沖縄の地に戻ってこられた事は大変喜ばしい事でございます。又、寄せ書きの中には「ソロモンとアッツの仇を頼むぞ」、「山本元帥につゞけ」というような時局を表した言葉の他にも「いつまでも元気でイツテイラシヤイ」、「元気デネー」というような今と変わらない相手を慈しむ言葉も記されています。

今後、奉納されました日章旗は当社で展示いたしますので、その際には皆様にも是非ご覧になっていただき、御霊の生きた時代に思いをはせていただければと存じます。

国旗返還式の様子　具志堅一雄氏（右から2番目）

特集

沖縄県護国神社は昭和11年の創建から数え、今年で86年目を迎えます。特集「沖縄県護国神社の歩み」と題し、11回にわたって神社の創建から現在までを紹介していきます。

昭和40年8月19日
佐藤栄作首相正式参拝

沖縄県護国神社の歩み
第六回 祖国復帰までの道のり

宮司　加治 順人

今年は沖縄が祖国復帰し五十年となります。その時私は八才でしたが、「日の丸」を手に持ち復帰を高らかに喜んでいた記憶があります。また通貨がドルから円へ変わり、駄菓子屋で買い物をするときに戸惑った覚えがあります。他にも知り合いの方が「これからはパスポートが必要なくなる」と言って喜んでいたことが思い出されます。

敗戦によって沖縄は米軍統治となり、本土とは異なる制度のもと、先人たちの血のにじむ努力と大勢の人々の力添えによって戦後復興が成され、五十年前に祖国へ復帰することができました。

そこで、今回の「護国神社の歩み」では、「祖国復帰までの道のり」と題して沖縄の祖国復帰と神社の復興について書き記したいと思います。

昭和二十年の沖縄戦によって荒廃した護国神社は、多くの関係者による復興活動により昭和三十四年四月に仮社殿が建立し、戦後初の春季例大祭が同月二十六日に斎行された。祭典では沖縄県出身戦没者九万三千四百四十六柱が合祀され、同年十一月十五日に行われた秋季例大祭では、靖國神社池田良八権宮司斎主のもと県外の沖縄戦戦没者六万五千七百十七柱が合祀された。

仮社殿の建立を期に、全国の遺族が参拝に訪れるようになり、本格的な社殿復興の機運が高まっていった。

しかし、米軍統治により沖縄は宗教法人法の適用外となっていたため、昭和三十七年二月社団法人沖縄県護国神社復興期成会（会長具志堅宗精）を設立し、本格的な復興が開始された。

主となる活動は、戦後那覇市の所有となっていた境内地の返還と県内外への奉賛金募集活動であった。そこで具志堅会長は那覇市へ敷地返還を陳情し、同年六月に那覇市市議会本会議にて返還陳情が採択された。

奉賛金募集については、具志堅会長自らが代表を務める琉鵬会（オリオンビール㈱他関連会社）より、三期に亘り総工費の約半分にあたる三万三千ドル（千百八十八万円）が奉納され、具志堅会長個人からも千ドル（三十六万円）が奉納された。

また、県内企業や金融機関、医療関係や沖縄に出張所を構える本土商社、そして全国の神社関係者や靖國神社職員会などから多額の奉納が寄せられた。

他に全国知事会から一万五千二百九十ドル（約五百五十万円）、神社本庁より二千ドル（七十二万円）の奉賛金が寄せられた。

特筆すべきは、沖縄市町村会会議に於いて、沖縄の全世帯に対し五セントの分担協力案が可決し即実施され、さらに沖縄教職員会会長屋良朝苗（復帰後の初代県知事）と事務局長喜屋武真栄（復帰後の参議院議員）の働きかけで、全琉の小中学校児童生徒に対し一セントの募金が実施された。

保革、県内外を超えた多くの方々の尽力と奉賛金により昭和三十八年八月第一期工事（境内整備工事）が㈱國場組により行われ、続く昭和三十九年七月第二期工事（本殿、拝殿）が㈱中原組にて行われた。

竣工に先立ち、戦後始めて首相として沖縄を訪問した佐藤栄作が訪問初日の昭和四十年八月十九日、田中角栄（当時自由民主党幹事長）、鈴木善幸（当時厚生大臣）等と共に参拝し、記念植樹が行われた。（P4写真）

竣工後の十一月十九日に、本殿に御霊をお迎えする遷座祭が靖國神社 池田良八権宮司斎主のもとに斎行され、翌日拝殿にて社殿復興祭が執り行われた。

祭典では天皇陛下より幣帛料が特別に下賜され、池田権宮司の手により神前に奉幣された。

祭典には、靖國神社奉賛会会長北白川祥子様、靖國神社筑波藤麿宮司夫妻、坊城俊良神宮大宮司、佐々木行忠神社本庁統理、全国知事会代表木下郁大分県知事が参列し、地元代表として琉球政府の太田政作行政主席、長嶺秋夫立法院議長他来賓四百名余、沖縄県遺族連合会山城篤男会長以下御遺族一万人以上が参列しご英霊へ社殿竣工が奉告された。

また、佐藤首相の沖縄訪問を機に政府要人の沖縄訪問が増え、再建された社殿へ多くの要人が慰霊参拝に訪れた。

昭和四十一年六月二十二日には、昭和天皇の御長女照宮成子内親王とご結婚された東久邇盛厚元殿下（写真下）、翌二十三日に山口喜久一郎衆議院議長がそれぞれ参拝に訪れた。

昭和四十四年十二月十一日に、沖縄担当大臣床次徳二総務庁長官が参拝し、御神前にて祖国復帰確定奉告祭が斎行された。翌年五月二十日には、同じく沖縄担当大臣山中貞則総務庁長官が参拝した。同年十月八日、中曽根康弘防衛庁長官、十二日に愛知揆一外務大臣がそれぞれ参拝に訪れた。

昭和四十四年十一月二十九日には、ご自身も特攻隊員であった裏千家家元千宗室による特攻隊戦没者慰霊献茶式が行われ、戦友の御霊へ御呈茶がなされた。

このように社殿復興後は、県内外の戦没御遺族並びに、皇室、政府関係者、沖縄県民の篤い崇敬を集める社となっていった。

昭和四十六年六月十七日、沖縄の祖国復帰を決める返還協定が東京とワシントンで調印されたのを受け、その五日後の二十二日、慰霊の日を前に沖縄を訪れていた愛知外務大臣が沖縄返還協定調印奉告祭に参列し、ご英霊に対して自ら奉告された。

昭和四十七年五月十四日復帰の前日に「祖国復帰奉告慰霊大祭」を斎行し、祭典では、天皇陛下より御下賜の幣帛料を奉幣し、政府代表高瀬侍郎復帰準備委員会会長、県出身国会議員、日本遺族会会長他、県内外四十以上の団体、御遺族二千名余が参列し、ご英霊と共に祖国復帰を祝った。

復帰後も、県内外の御遺族や戦友が参拝に訪れ、慰霊の中心として内外からの崇敬を集めた。

しかし神社としての法的整備は整っておらず、いまだに「社団法人沖縄県護国神社復興期成会」として諸祭典や慰霊祭を行っていた。そこで、かねてからの課題である宗教法人としての認証を得るための取り組みが開始された。

まず、復帰から二週間あとの五月二十九日、県知事に対して宗教法人沖縄県護国神社規則（案）を提出し、認証のための規則調整と役員への了承作業が行われた。翌四十八年八月十五日宗教法人沖縄県護国神社規則認証申請書を沖縄県知事に提出した。

同年十二月十八日県知事より認証を受け、正式に宗教法人沖縄県護国神社となった。

復帰以降、県外遺族団による糸満市摩文仁や米須、八重瀬町の各県慰霊の塔への参拝が増え、その前後に護国神社参拝が定着し、現在も沖縄の御遺族と共に全国の御遺族の篤い崇敬を集めている。

昭和41年6月22日　東久邇盛厚元殿下 正式参拝

沖縄県護国神社版 すごろくで辿ってみよう

祖国復帰50周年

沖縄の祖国復帰が
実現しない限り
わが国にとって戦後
は終わっていない

昭和40年 佐藤 栄作

昭和50年11月23日
終戦30周年記念大祭

天皇陛下より幣饌料御下賜
（10年ごとに御下賜）

昭和48年12月18日

復帰に伴い特別措置に基づいて法律47条1項の規定により宗教法人法に従い法人登記を申請し、宗教法人沖縄県護国神社として屋良朝苗沖縄県知事より宗教法人の認証を得る（財団法人沖縄県護国神社奉賛会は発展解消）
ついに!「沖縄県護国神社」誕生!!

スタート

それから7年後
沖縄は日本に還った

昭和47年5月14日
祖国復帰奉告慰霊大祭斎行

5月15日当日は、那覇市民会館にて式典が行われた。

昭和54年

年間の神前挙式は507組、七五三詣は約1000名に上る

昭和54年12月29日
代表役員　具志堅宗精氏 御逝去

（株）オリオンビール創業者
昭和37年　社団法人沖縄県護国神社
　　復興期成会設立　初代会長
昭和42年　社団法人沖縄県護国神社
　　奉賛会設立　初代会長
昭和48年　宗教法人沖縄県護国神社
　　初代代表役員（会長）
※当神社の再建に3万3千弗の奉納
　個人でも1千弗奉納
※現在も（株）オリオンビールから1名当神社
　責任役員に就任頂いている。

平成23年4月23日
第53回春季例大祭
御創建75年記念事業
完功奉祝祭典斎行

天皇陛下御即位20年記念事業
天皇皇后両陛下歌碑除幕
（現上皇上皇后両陛下）

平成22年12月23日
新社務所竣功祭斎行

平成21年2月

全国護国神社會主催の皇居勤労奉仕に伊藤宮司が団長となり参加。
その際に皇后陛下（現上皇后陛下）より侍従を通し「瀬音」を賜る。
本に掲載の「鹿子じもの　ただ一人子を捧げしと　護国神社に語る母はも」がきっかけとなり御即位20年を記念して歌碑建立。（平成23年）

平成23年6月22日

「夫婦像」奉納
沖縄県傷痍軍人会

平成24年正月

参道に新年を慶賀する
奉納提灯（献灯）を開始

平成26年4月24日

全国敬神婦人連合会
北白川慶子会長御一行正式参拝

昭和57年正月

午前零時打ち上げ花火を上げ
盛大に新年を祝う　8万人

昭和62年12月23日

第一鳥居老朽化により
新たに建立

平成元年1月8日
昭和から
平成へ

平成5年4月23日
第44回全国植樹祭
両陛下初御来県

天皇陛下より幣饌料御下賜

昭和60年

1年間で41の都道府県からの
遺族団ほか団体が正式参拝

平成12年10月1日

社報「うむい」創刊　第1号

平成7年9月7日

「平和の像」奉納
沖縄県遺族連合会
終戦50周年記念事業

平成20年10月23日
第50回記念
秋季例大祭斎行

靖國神社南部利昭宮司参列

平成18年

正月初詣
20万人突破

平成30年4月23日

「あゝ特攻」勇士之像 奉納
公益財団法人特攻隊戦没者
慰霊顕彰会

令和2年2月下旬より

新型コロナウィルスの
猛威により対策を行う

令和元年5月1日
践祚改元奉告祭
平成から
令和へ

現在

令和4年4月1日現在

令和18年の創建100周年に
向け社殿造営委員会を立ち上げ
社殿をはじめ境内整備を計画し
準備を進めている。

第六十三回春季例大祭

四月二十三日 第六十三回春季例大祭が斎行されました。緊急事態宣言発令中のため、来賓やご遺族のご参列はお控え頂き、宮司以下職員のみで厳粛にご奉仕致しました。

また、「あゝ特攻」勇士之像慰霊祭が祭典後に行われこちらも宮司祭員のみにて滞りなく斎行されました。

沖縄戦全戦没者慰霊祭

沖縄戦終結とされる六月二十三日沖縄戦全戦没者慰霊祭は、昨年同様規模縮小となり、役員総代のみご参列頂き斎行されました。

正午に黙祷を捧げ国歌斉唱、宮司が祝詞を奏上し「みたま慰めの舞」を奉奏、慰霊電報も多数寄せられご神前に報告致しました。

終戦記念日みたま祭り

八月十五日戦後七十六年の終戦記念日みたま祭りは英霊にこたえる会沖縄県本部共催、また、沖縄県遺族連合会、日本会議沖縄県本部の後援により斎行されました。

引き続きコロナ禍とありご参列は各代表のみとなりました。正午の黙祷に続き天皇陛下のおことばをラジオから拝聴し、国歌斉唱、宮司祝詞奏上、英霊にこたえる会沖縄県本部瑞慶山良祐会長が祭文を申し上げ厳粛に斎行致しました。

第六十三回秋季例大祭

十月二十三日、秋季例大祭は緊急事態宣言解除後であったものの、感染予防のため規模縮小しての祭典となりました。

宮司祝詞奏上のあと大祭委員長比嘉良雄会長、沖縄県遺族連合会我部政寿副会長が祭文を奏上しご英霊に対し尊崇の意を捧げました。

また、MOA山月光輪花より献華を賜りました。

令和四年正月

コロナ禍での二回目の我慢の正月を迎えた令和四年。緊急事態宣言は発令されていなかったため令和三年の正月に比べ参拝者数は増加したものの、喜びも束の間、一月九日より再びまん延防止等重点措置が発令され、一気に自粛モード。

天候に恵まれた三が日であったが、本年も分散参拝のご協力をいただくこととなった。

しかしながら、皆さんの祈りの気持ちは献灯に現れているのだろう。今回で十二回目を迎える新年慶祝の奉納提灯は毎年増加傾向で本年は約九〇〇灯の申込を頂いた。

正月献灯

奉納者ご芳名

（掲揚名・順不同・敬称略）

ホテルパークスタジアム那覇・㈱沖縄ボイラエンジニアリング・誠シャッター沖縄㈱・㈱アニヤデンキ・㈱アニヤデンキ ア・ピカ・㈱タカミ・ブライトホーム 代表者 上地学・㈲フォートプランサービス・日琉国際言語学院・米元建設工業㈱・㈱御菓子御殿・㈱御菓子御殿ホールディングス・㈱御菓子御殿クリエーション・三協電気工事㈱・さかえ労務管理事務所・㈲新長堂土木・（社福）大竹福祉会・㈱古波蔵組・㈱りゅうとう・㈱かねよし・㈱ASAKA・三栄工業㈱・北谷町まちだクリニック・㈱シンテック・㈲琉球セレモニー・豊見城地区交通安全協会・沖縄鶏卵販売㈱・㈱豊都建設・㈱東洋設備・㈲西紀・㈱プレオ都市開発・㈱鏡原組・㈲蒼竜社・医療法人玉福 空と海とクリニック・㈱トランク・㈱コーニッシュ代表取締役今村聖三・㈱カルティペイト・国龍機工・高良幸栄・高良幸司・高良勇介・高良良陽平・新日本工芸㈱・たけや旗染店・沖縄県郷友会・沖縄偕行会・オオシロ商事㈱・㈱宮城組代表取締役宮城利安・㈲照電社代表取締役仲間博明・㈱剛設備社・㈱九電工・グリーン産商㈱・㈱昌樹鉄筋工業・表千家同門会沖縄県支部・就労継続支援事務所コモンズ代表 幸喜利奈・相談支援事業所コモンズ代表幸喜利奈・仲オート・宮城武志・アスク沖縄㈱・㈲沖セレモニー社・㈱阿部・㈱新建・丸山康太郎・富士商㈱・富士商㈱代表取締役社長渡辺健太郎・富士商㈱沖縄営業所取締役部長 丸山康太郎・（一社）RYUKYU TENNIS CREATION・㈱ルート66・リュウゴジャパン㈱・沖縄ガス㈱・福井康夫・㈱リカーショップ新城・㈱まつけん設計・㈱ツハ設備・大晋建設㈱・㈱大輝・㈱匠宮・㈱ジャスミンソフト・極東警備センター・㈱ホテルゆがふいんおきなわ・琉球経済開発・㈱日和設計・㈱真宣組・㈱MASUGU・沖縄製本㈱・國和設備工業㈱ 代表役員 比嘉良雄・㈱めいわ総建 代表取締役 山川和明・RBCiラジオ・保崎芳秋 恭子・正建設・㈲西原農園・沖縄シャーリング㈱・㈾久保田産業・久保田照子チャームスクール・カープラザOKUMA・㈱久保田商工・ファミリークリニック小禄・㈱おきさん・㈱神路社・ユートピアハウジング㈱・沖縄リビック㈱・㈲丸徳ガス産業・責任役員 照屋苗子・オーシロ電化 オーシロマンゴー園・（一財）沖縄電気保安協会・㈲アカリ設計・㈲エーツーサイン・久米建設㈱・㈲オキシーサポート・富士電機㈱沖縄支社・L.D.K㈱・オリオンビール㈱ 責任役員 高江洲 守・外為どっとコム・沖縄サンゴ㈱・拓南グループ拓伸会・㈱桜電機工業・㈱シンコウ・㈲大成エンジニア・SKG㈱・㈱沖城ポンプ・富士パートナー㈱・富士パートナー税理士法人・㈱リウデン・㈱京和土建・㈱リクルートライフスタイル沖縄・ミカエル・オドウゴー・長谷川琢真・与那城遺族会・㈱縁（えにし）・やっぱりステーキ・㈱国和システム・八潮重設運輸㈱・小禄地域振興会・白梅慰霊の会・㈱WSC・シンパホールディングス㈱・國幸興業㈱・aロショップ軍川・㈱ヒロハルファーム・㈱リュウロード・沖縄三菱電機販売㈱・㈱富士開発・㈱ホテルグランビュー・八重山遺族連合会・MROJapan㈱・㈱ビジネスランド 渕辺美紀・（一社）茶道裏千家淡交会沖縄支部・お香の香音・㈱円満企画・大鏡建設㈱・ヤシマ工業㈱・ヤシマ工業㈱安全衛生協力会・㈲たけ事務・㈱しげ組・産経新聞社那覇支局・㈲設計集団 閃・沖縄県赤十字血液センター・総代 座喜味和則・㈱うるま印刷・英霊にこたえる会沖縄県本部・あすなろ司法書士法人・㈱スケット・㈱外間重機・㈱オカノ・㈱企画T・㈲大松・那覇東急REIホテル・㈲大起電設・トーマ産業㈱・㈱おきぎんエス・ピー・オー・KYシステム㈱・㈱松村電機製作所 沖縄営業所・㈱松村電機製作所 上原康幸・前原良一 まち子・フォートプラザ・㈲沖縄ニューハウスセンター・光文堂コミュニケーションズ㈱・外間なるみ・建築工房MILIER・㈱おきぎんリース・（一社）沖縄海友会・㈱エーデルワイス沖縄・東忠住建㈱・恩納村遺族会・第一総業㈱・蘭フラワー・沖縄花卸販売㈲・㈱ホクガン・オロク商会㈱・南洋土建㈱・修養団捧誠会沖縄県支部・㈱島屋・新光緑化開発・㈱ひまわり総合食品・㈱おきぎんジェーシービー・㈱西建設・㈱ゼーゲン・カンパニー・㈱正広コーポレーション・㈲サノハタ・㈱三貫運輸・㈱ビーンズラボ・真和志遺族会・楊少文・立津 美奈子・立津陸 立津 杏樹・㈱屋部土建・㈱上雅装工・㈱Maehara・沖縄県隊友会・㈱トラスティック 代表取締役 渡慶次勝・閃光社 代表者 長田益博・㈲沖縄式典プランニング・地酒とまごころ料理 つくも・たろう歯科医院・乾 太郎・乾 礼名・乾 華子・乾 蘭子・乾 夢子・与那嶺組㈱・佐和田恵 君子・新装美・㈲エスケイプランニング 総代代表 大城竹明・本部町遺族会・塩屋内張・（一社）沖縄県戦没者慰霊協会・嘉互業・㈲丸和産業・島袋澄春・街クリーン㈱・㈱国際ビル産業・㈱桃原農園・㈱サンクス沖縄・自主憲法制定沖縄県民会議・小笠原流煎茶道 沖縄総支部・小笠原流煎茶道 家元教授 日置ハツ・首里遺族会 会長 照屋苗子・㈱丸忠・㈱健伸組・まぁさん堂有志会・まぁさん堂 龍成 笑花 怜笑・さくらん 田場清一・さくらん 宮城竹弥・凛士木 代表者 新垣翼・盛工業上原開発・グリーン・ピース・㈱沖縄キャリー・ホテルラマーレ古宇利・㈱リアルプロ・ハウスドゥ！ 北谷店・ハウスドゥ！恩納 読谷店・（学）ゴレスアカデミー・日本文化経済学院・ラーメン工房 麺太・宅配専門 クリーニング・エース・㈱コモドハウス・てぃーだ社労士事務所・㈱えんむすびハウジング・㈱ジョイント沖縄・那覇市連合遺族会 那覇遺族会 会長瑞慶山良祐・玉城流翔節瑞祥和の会 会主 瑞慶山和子・大阪 吹田市 野﨑孔作・大阪 吹田市 野﨑節子・㈱おきなわフィナンシャルグループ・㈱沖縄銀行・㈱琉球銀行・イー・フレス㈱・ABC沖縄放送宣伝社・沖縄県遺族連合会・嘉手納町遺族会・監事 宮城篤正・㈱福岡奉製・SYM-TING GROUP・武田晴香・那覇遺族会 副会長 金城清文・大嶺英希・㈱OGC・㈱Gnext・Rascals・SPLASH MJJ・㈲わかまつどう製菓・㈱JAおきなわAコープ・豊見城市議会議員宜保安孝・㈱レンタリース沖縄・翁長自動車整備工場・琉球ゴーレックス㈱・㈲匠建・㈱茂水産・まくろ大吉・恩納村遺族会・阿含宗沖縄道場・㈱沖縄計装・㈱金城組・㈲ムーププランニング・㈱マルゼン・山城開発㈱・税理士法人 リモト・㈱ミロク情報サービス・㈲ビーンズ広告社・沖縄トヨタ自動車㈱・鳶工業 屋島興業・鳶工業 狩俣工業・鳶土工業・㈲狩俣組・鳶工業 大秀興業・鳶工業 龍愛工業・鳶土工業 日向工業・鳶工業 藤山工業（大京組㈱）・鳶土工事業 大京組㈱・鳶工業 吉工業・ありめ保険事務所・上原 健太 樹蘭 あんじゅ 島袋 聖矢 優愛 蓮翔 美愛 桜翔 永翔・島袋工業・㈱松原工業・鳶土工 金宏組・鳶工事 下里鳶工業・田畑工業・沖縄県傷痍軍人会・㈱久米島の久米仙・JYMA日本青年遺骨収集団・横浜市㈲関口商店・アラカキ建設・㈱active・㈱沖縄日立・司法書士法人ロアック

ありがとうございました。

社務日誌抄

令和3年4月～令和4年3月

4月

22日 **第63回春季例大祭宵宮祭**
23日 **第63回春季例大祭**
23日 **「あゝ特攻」勇士之像慰霊祭**
29日 **昭和祭**

5月

15日 **沖縄県祖国復帰記念祭**

6月

22日 勇魂の碑慰霊祭 奉仕
23日 **沖縄戦全戦没者慰霊祭**
28日 令和三年度第一回責任役員会
30日 **夏越の厄除け祈願祭**
大祓式

7月

2日 海上挺身鎮魂の碑慰霊祭
奉仕
17日 しづたまの碑慰霊祭 奉仕
26日 英霊にこたえる会沖縄県本部総会

8月

15日 **終戦記念日みたま祭り**

9月

23日 **秋季皇霊殿遙拝式**
27日 神宮大麻暦頒布始祭 参列

10月

10日 空の神兵顕彰会 正式参拝
同講演会宮司講話
17日 **神嘗祭遙拝式**
17日 波上宮崇敬奉賛会秋祭 参列
22日 東京都遺族連合会 自由参拝
22日 **第63回秋季例大祭宵宮祭**
23日 **第63回秋季例大祭**
24日 修養団捧誠会神石四七年祭
28日 兵庫県遺族会 正式参拝

11月

3日 **明治祭遙拝式**
8日 「甲斐の塔」慰霊巡拝団
正式参拝
8日 第14回総代会
13日 住吉神社例大祭（那覇市）奉仕
14日 高知県遺族会 正式参拝
翌15日 土佐の塔慰霊祭 奉仕
14日 新潟の塔奉賛会 正式参拝
16日 奈良県遺族会 正式参拝
16日 愛知県遺族連合会 自由参拝
18日 福島県遺族会 正式参拝
同日 ふくしまの塔慰霊祭 奉仕
18日 熊野速玉大社 宮司上野顕様
正式参拝
19日 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
正式参拝

12月

23日 **新嘗祭**
24日 埼玉県遺族連合会 正式参拝
26日 神奈川県遺族会 正式参拝

1月

6日 大阪府遺族連合会 正式参拝
20日 滋賀県遺族会 正式参拝
26日 **神符守札清祓い並びに助勤者安全祈願祭**
31日 **大祓式・除夜祭**

1日 **歳旦祭**
3日 **元始祭**
15日 **神符守札焼納祭**

2月

2日 **節分祭**
8日 日本和裁士会沖縄県支部 針祭
11日 **紀元祭**
17日 **祈年祭**
17日 JYMA日本青年遺骨収集団
正式参拝
23日 **天長祭**
26日 SYDボランティア友の会
正式参拝
27日 柏木白光様 正式参拝

3月

6日 茶道裏千家淡交会沖縄支部
正式参拝
11日 國學院大學菅浩二教授 正式参拝
19日 日本会議沖縄県本部 正式参拝
20日 **春季皇霊祭遙拝式**
28日 令和三年度第二回責任役員会

第三鳥居・参道Gセラ塗布奉納

琉球ゴーレックス株式会社（代表取締役知念礼子）より境内参道及び第三鳥居にGセラ塗布をご奉納頂きました。Gセラはコンクリート・石材・タイル等の質感風合いはそのままに表層を強化して、建造物の吸水・劣化を防ぎ耐久性を向上する無機質建材表層強化剤です。年末のご奉仕となり清々しく新年を迎えることが出来ました。

社殿・社務所内除菌・抗菌奉仕

三月二十三日夕刻、除菌隊沖縄本部なる塗装ボランティア団体に参加していた有志メンバーによる除菌奉仕が行なわれました。疫病鎮静を願い、社殿や社務所内に除菌・抗菌剤を噴霧して頂きました。

「和の精神」世界へ 揮毫色紙奉納

和プロジェクトTAISHI代表宮本辰彦氏より九月二十一日の国際平和デーに合わせ世界の恒久平和を祈念し書家・竹本大亀氏揮毫の色紙「以和為貴（和を以て貴しと為す）」が奉納されました。

沖縄県護国神社 元代表役員（会長） 座喜味和則氏ご逝去

去る10月22日、沖縄県護国神社元代表役員（会長）座喜味和則氏がご逝去されました。享年94歳。

同氏には平成4年より当神社責任役員（理事）にご就任頂き、平成16年からは12年間代表役員（会長）にご就任頂きました。また、その間には沖縄県遺族連合会の会長もお務めでございました。

長きに亘り英霊顕彰、神社発展に多大なるご尽力またご指導を賜りました。謹んで哀悼の意を表します。

奉納者御芳名

令和三年四月～令和四年三月
（社務日誌掲載以外・順不同・敬称略）

永代慰霊命日祭 新規申込者

北海道千歳市　谷村征利
北海道札幌市　一戸弥生
沖縄県宜野湾市　當山盛市
北海道札幌市　桜井朋子
岐阜県岐阜市　江崎明美
三重県志摩市　杉木茂樹
広島県大竹市　松本春高
神奈川県鎌倉市　関政子
北海道札幌市　長野洋子
北海道札幌市　櫻田スミ子
熊本県山鹿市　岡部典子
群馬県吾妻郡　関崎勝治
東京都西多摩郡　須崎幸子
北海道札幌市　井上十重子
〃　鶴原憲秀
岩手県花巻市　瀬川豊子
北海道函館市　伊藤和子
徳島県阿南市　幸田純子
福島県喜多方市　田中昭二
北海道亀田郡　岩田軍一
滋賀県東近江市　松浦友一
北海道北斗市　田島義勝
愛知県豊橋市　牧香里
北海道函館市　対馬長敏
沖縄県石垣市　瀬名波長宏
北海道札幌市　北村孝子
茨城県取手市　大塚幸男
石川県小松市　南出修宏
千葉県市川市　松永修巳
〃　利喜子
滋賀県甲賀市　宿谷延子
愛知県豊橋市　小野よし子
熊本県熊本市　松尾誠
三重県伊勢市　村井洋子
滋賀県大津市　清水千鶴子
千葉県佐倉市　米澤務
群馬県甘楽郡　中村公美
大阪府池田市　島村美哉子
佐賀県小城市　藤島由紀子
愛知県海部郡　気田一郎
北海道川河東郡　髙橋仁
静岡県榛原町　小坂博志
島根県雲南市　勝部昇
北海道雨竜郡　木村寿文
沖縄県那覇市　新垣信正
沖縄県浦添市　濱松昭
沖縄県那覇市　与那嶺朝博
沖縄県那覇市　与那嶺小百合
京都府福知山市　武田一子
北海道札幌市　沼田富美枝
大阪府寝屋川市　細田拓彦
愛知県刈谷市　丹村要二
北海道日高郡　岡村弘
沖縄県那覇市　与儀シゲ
三重県津市　林和子
北海道足寄郡　大竹口重幸
福岡県北九州市　茶屋本廣喜
群馬県太田市　木村保
阿含宗沖縄道場　上原仙子
沖縄県那覇市　箕浦義之
岐阜県岐阜市　武田一子
京都府福知山市　外當眞知子
沖縄県うるま市　又吉妙子肇
沖縄県浦添市　久保田照子
沖縄県那覇市　中田雅子
東京都小平市　岩崎悟
東京都清瀬市　富田喜代志
東京都八王子市
修養団奉誠会　総裁出居德久
〃　木島正孝
修養団奉誠会沖縄県支部　平良和子
〃
修養団奉誠会豊島支部　豊田大
〃　豊田紀子
〃　米
〃　米
修養団奉誠会函館支部　近藤礼子
〃　米
（株）衣浦商会　金髙義幸
新潟縣護國神社　宮司　齋藤伸雄
兵庫県神戸市　福井康夫
（株）コーニッシュ
代表取締役　今井聖三
沖縄県那覇市　金城逸男
牧口八幡宮　宮司　小野日隆
茨城縣護國神社　宮司　飯塚重
普明会教団
沖縄慰霊会
沖縄県浦添市　高嶺嘉代子
牧志公設市場衣料部　金元秀治
兵庫県神戸市　山岸律子
神奈川県川崎市
広島経済大学名誉教授　岡本貞雄

果物　岐阜県遺族会会長　山田大

寄贈

干支琉球ガラス　友利龍
絵画　山根蓮
絵画　小波津有希
CD　鶴澤美枝子
DVD　靖國神社

寄贈書籍

「ボルネオから琉球へ」　有馬光正
「出光佐三 正伝」　奥本康大
「神社本廳七十五年誌」　神社本廳
「伊藤半次の絵手紙」　伊藤博文
「今、何を語らん」
JYMA日本青年遺骨収集団
「知覧の恋文」
「知覧に行ける人の心得」
「対馬論 対馬を学べば日本が学べる」
全国日本道連盟
「追悼 ブーゲンビル島戦七十五年記念桐木平武市氏スケッチ画集」
全国ソロモン会
「これだけは知っておきたい 沖縄の真実ー誰が沖縄を守るのか？」
「沖縄はいつから日本なのか」
「狙われた沖縄」
日本沖縄政策研究フォーラム
「終戦五十周年記念誌 うむいかきて」ほか九冊　大嶺順子
「すくぶん」
真玉橋ノブ研究所
「「沖縄のピカソ」と呼ばれた小波津有希二十一年の軌跡」
小波津智恵美
「まんが 護国神社へ行こう！」
山中浩市
「愛知県下英霊社忠魂碑等調査報告書第六輯」
愛知縣護國神社

賛助会奉納金

琉鵬会
沖縄ツーリスト（株）
オキコ（株）
第一食糧（株）
大晋建設（株）
たけや旗染店

御供物

神饌　（株）オリオンビール
正面幕 樽酒　ジーマ（株）
正面幕 樽酒　（株）ジーマック
泡盛　久米島の久米仙
鶏卵　沖縄鶏卵販売（株）
生花　蘭フラワー
生け花　MOA山月 光輪花
写真　フォートプラザ
国旗　たけや旗染店
米　（有）関口商店
米　木村保
米　金髙義幸
果物　岐阜県遺族会会長 山田大

沖縄県護国神社
うむい
令和4年
第29号

ご祭神の遺籍調査について

現在、各地の護国神社でご遺族・崇敬者の方の参拝が減少しているため危機に瀕しています。護国神社中最多の十七万七千九百十二柱がお祀りされている当社においても例外ではなく、例えば春秋の例大祭において昭和四十年代では実に、七～六千人の参列がありましたが、現在は三百名を切るような状況となっております。

先の大戦で県民の四人に二人が散華された沖縄県に住む多くの人が遺族と言っても過言ではありません。当社では随時御霊とのお繋がりを証明する祭神調査書の発行や、ご命日の日に御霊を慰霊安鎮する永代慰霊命日祭のお申込みを承っております。御霊が最もお喜びになるのは、ご子孫の方のお顔を見る事、又ご子孫の方が自分を忘れず、思い出してくれるという事であるとご拝察申し上げますので、この機会に是非お問合せ下さい。

※御来社される日が分かりましたら、事前にお電話頂けると幸いです。

※ご希望に応じ、軍歴証明書の取り方や、厚生労働省が実施している、遺骨収集事業にて御帰国されました遺骨のDNA鑑定のご案内、その他、可能な範囲内で関連団体（戦友会・遺族会・遺骨収集団体・慰霊団体）のご紹介やお取次ぎを致します。

詳しくは当社までご連絡ください。

【調査対象のご祭神】

当社に合祀されている全てのご祭神
十七万七千九百十二柱

県内出身の対象

屋比久孟治命をはじめ、十二万九百八十一柱

※日清戦争～大東亜戦争にて散華された軍人・軍属の方。沖縄戦において散華された民間人の方。

県外出身の対象

牛島満命をはじめ、六万六千九百三十一柱

※沖縄戦において散華された県外出身の陸海軍の軍人、軍属の方。

※沖縄方面に出撃された特攻隊員の方や、天一号作戦参加者、義烈空挺隊員等も対象となります。

【ご依頼主様の条件】

ご祭神のご家族様

※ご家族様であれば直接の血縁関係は問いません。

※プライバシー保護法の観点からご家族様以外の調査（研究目的を含む）についてはお受けできかねます。

【必ずご持参いただくもの】

・ご依頼主様の身分証明書
（保険証・運転免許証・マイナンバーカード等）

【ご持参いただけるとよいもの】

※必須ではございません。

・軍歴証明書
・ご依頼主様とご祭神の繋がりがわかるもの
（戸籍謄本等）
・ご祭神の本籍や生年月日がわかるもの
・その他、ご祭神に関係する資料

書籍紹介

『伊藤半次の絵手紙』

『約400通と3通』これはあるご祭神が生前、家族向けて出した絵手紙の総数です。ご祭神のお名前は伊藤半次命。福岡県のお生まれで提灯職人でした。半次命はまず、満州に出征しそこでご家族に向け愛情あふれる絵手紙を約400通出されます。しかしながらその後、戦局急を告げる沖縄に派遣された10月22日から護国の社へ旅立たれる6月18日までにご家族に出された手紙は僅か3通でした。それも昭和19年11月に出されたお手紙が最後の文になりました。

著者の伊藤博文様は半次命のお孫さんにあたれる方です。博文様は筆まめだった祖父が3通しか送れないほどの激戦地だった沖縄で、どんな状況にいたのだろうか―。という思いで、11月以降の半次命の足跡を辿るための沖縄への巡拝、戦友の方への聞き取り、又広く世間に半次命の事績を知ってもらうべく御祖父さまの生きた証である絵手紙の整理はもとより企画展の実施、電波、活字を通した広報と慰霊に関わる様々なことを精力的に行われています。博文様の御祖父様を思うひた向きなご活動に、半次命をはじめ御霊もさぞお歓びの事とご拝察申し上げます。

リウボウブックセンターやジュンク堂等県内の書店でも扱われているとの事ですので、皆様是非この機会にお手に取ってご覧いただければと思います。

『まんが 護国神社へ行こう!』

このたび護国神社研究家の山中浩一氏が『まんが護国神社へ行こう!』を出版されました。本書の特徴として特定の護国神社を想定せず、全ての護国神社が普遍的に持っている事項が書かれています。内容は子供向けの漫画ということもあり平易な文章で書かれていますが、護国神社設立の経緯、護国神社の歴史、御祭神のこと、神社参拝の基礎知識、ご英霊のおもい、崇敬活動の重要性、参拝の楽しさ、護国神社についてよく尋ねられる質問がまとめられたQ&Aコーナーなど護国神社に関する基礎的な事が一通り網羅されています。また漢字にルビが振られており、都度用語の解説が登場するなどの細かい配慮がされているので、小学校4年生程度の知識があれば難なく読むことが可能です。

今後御霊の声を直接聞いたことがある方は更に少なくなるでしょう。しかしながら、それでも神社を永久に護持していかなければなりません。次の世代に正しいバトンを渡さなければなりません。本書はそのきっかけとなると考えます。皆様も機会がありましたら是非ご覧になって下さい。

[発行所] 沖縄県護国神社社務所
〒900-0026 沖縄県那覇市奥武山町44番地
電話（098）857-2798

令和4年4月発行　発行　沖縄県護国神社　／　編集人　前原万岐
https://www.okinawa-gokoku.jp/